

京 都 府 大 江 陶 石 鉱 床 概 査 報 告

位 置 お よ び 交 通

大江陶石鉱床は京都府加佐郡大江町南有路部落の東方3.2kmに位置し、この間は町村道であつて小型三輪車を通じうる。また、南有路部落までは、山陰本線福知山駅で分岐する河守鉄道の河守駅下車、あるいは福知山駅から出ている省営自動車有路線で、終点南有路下車を便とする。

現 況

当鉱床は中村一恵によつて出願され、目下採掘準備中である。

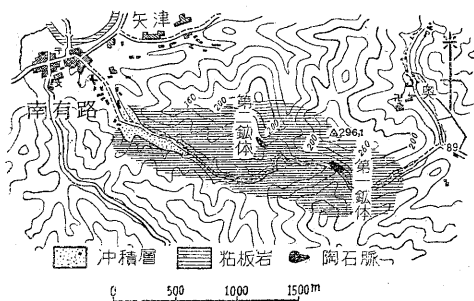
鉱区所在地 京都府加佐郡大江町地内

鉱区面積 2424.04 アール

出 願 人 中村一恵 (京都府加佐郡大江町南有路1471)

地 質

当地域の地質は、秩父古生層に属する粘板岩およびこれを貫ぬく石英斑岩の岩脈からなる。古生層の粘板岩はこの附近に広く分布するもので、黒緑色を呈し、その走向はN70~80°Wで、北方に40°内外傾斜している。石英斑岩はN70°W方向にレンズ状に延びた小岩脈であつて、熱水作用を蒙つており、当陶石鉱床の原岩となつている。



第 1 圖

鉱 床

本鉱床は石英斑岩の小岩脈を原岩とする浅熱水鉱床で

2個の鉱体からなり、これを第1鉱体および第2鉱体と命名したが、いずれも小規模のもので、量的には期待できない。第1鉱体は大江町南有路部落から何鹿郡志賀郷村西方部落に通ずる町村道の郡境近くにあり、N75°Wに延びたレンズ状鉱体であつて、走向延長110m、最大脈幅12m(平均脈幅8m)が確認された。第2鉱体は第1鉱体の北西方0.7kmに位置し、N65°Wに延びたものであるが、第1鉱体に比較してさらに小規模なものである。その走向延長70m、最大脈幅7m(平均脈幅4m)である。

鉱石および品質

本陶石は塊状を呈し、節理面は酸化鉄のため、茶褐色に汚染されているが、その内部は比較的白色である。今回の調査において採取した第1鉱体産の陶石試料を、京都市立京都工業研究所で品質試験を実施した結果は次の通りである。

試料： 原石 0.5l をポケットミルで25時間粉砕したもの。

試料番号	可 塑 性	収 縮 率(%)		SK 10 R.F. 焼成物	
		乾燥	(SK 10 R.F.) 焼成	原石呈色	釉との関係(石灰釉) 施釉呈色
1	難 (粘着性あり)	2.5	15.0	白色	微青白色(貫入)
2	難	2.5	12.5	白色	微青白色
3	やゝ良	2.5	15.0	白色	微青白色

試料番号	磁化程度 (SK 10 R.F. 焼成)	耐火度 (SK)	備 考
1	やゝ磁硝化	19	素地原料として不良
2	磁 化	27	素地原料として不良
3	磁 化	26	素地原料として不良

本陶石の品質試験の結果、試料2および3は良好で、素地原料としての利用が可能である。

なお、第1鉱体産の試料(選鉱物)の既往の分析結果は次表の通りである。

成 分	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₂	MnO	CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O	Ig. loss	Total
百分率(%)	80.48	0.01	12.91	0.31	tr.	0.25	0.06	2.26	1.69	2.01	99.01

耐火度 SK 26 (分析： 陶磁器試験所)

すなわち、本陶石は一般に可塑性に富み、焼成状態も良好であり、選鉱を行えば一般の陶磁器用原料として使用可能である。

結 論

本鉱床の陶石は、品良的には比較的良好であるが、量

的に大きな期待が持てないため、計画的な採掘を行って売鉱することは困難と考えられる。現地附近に小窯を築造して、小規模な製陶を行うことが望ましい。

(調査： 塚脇祐次)

553.46 : 550.85 (521.83/.84) : 622.346

岡山県・広島県下の重石鉱床調査報告

岡山県・広島県下の重石鉱床として、広島県蘆品郡阿宇村阿宇鉱山、同県加茂郡原村小倉鉱山、岡山県都窪郡庄村日本タンゲステン岡山鉱業所およびその西方 3~5 km の地域に分布する浅原鉱床およびその他の旧坑を調査した。阿宇鉱床は黒雲母花崗岩・半花崗岩・石英斑岩中の小倉鉱床は黒雲母花崗岩中の、ともにペグマタイト質石英脈に伴う鉄滴俺重石鉱床で、いずれも NNE-SSW 系の平行鉱脈群よりなる。岡山県庄村周辺地域の鉱床は黒雲母花崗岩中に南北に平行して発達する 10 数

条の鉄滴俺重石石英脈群よりなり、前記鉱業所のほか、浅原鉱山・水別鉱山等で稼行された。

岡山県の鉱床は広島県のそれに比べて、輝水鉛鉱・黄鉄鉱・黄銅鉱・方鉛鉱・閃亜鉛鉱等の硫化物を随伴することが多く、選鉱上に難点がある。浅原鉱山 3 号鍾以外は全般的に低品位でかつ鉱床の規模が小さいから、大規模の稼行は期待できない。(調査： 土井啓司、抄録： 岸本)

553.551 : 550.85 (521.85) : 622.355

山口県大嶺田町重安附近の石灰石鉱床概査報告

美彌線重安駅の西側山地を概査したもので、附近の地質は秩父古生層の Neoschwagerina 石灰岩を主とし、その下に粘板岩層・硬砂岩層があり、これらはほぼ N 45~60°E, 25~30°NW または SE の走向傾斜を示し、NE-SW の軸をもつて緩い褶曲を繰返している。石灰岩は厚さ 90~150 m で、下部は珪質であり、時に輝緑凝灰岩・粘板岩が介在する。

原石は一般に均質で、締密塊状を呈し、CaCO₃ は 92~98% (平均 95%) で、やゝ珪酸に富む (1~3%) が、セメント原料には適している。

現在採掘されている地区だけで 5,000 万 t の鉱量が見込まれ、その東部一帯を含む広範囲の調査が必要である。

(調査： 上野三義、抄録： 非金属課)